

第 8 期岸和田市文化振興審議会会議録

1．審議会の名称	第 8 期岸和田市文化振興審議会
2．開催日時	平成 23 年 7 月 22 日（金）午後 2 時から
3．開催場所	岸和田市立文化会館 創作実習室 2
4．公開・非公開の別	公開
5．出席者	肥田委員、藤田委員、塚本委員、新谷委員、桐原委員、金森委員、 木津川委員、宮川委員、船附委員、竹田委員、西山委員 以上 11 名
6．欠席委員	松本委員 以上 1 名
7．事務局	野口市長 玉井課長、田宮担当長、佐原担当員、畑部担当員 以上 5 名
8．傍聴者	なし
9．次第	1 開会 2 委嘱式 3 市長挨拶 4 委員紹介 5 会長・副会長の選出 6 議題 (1) 岸和田市文化振興審議会の概要 (2) (仮称) 岸和田市文化振興条例策定について 7 その他 8 閉会
10．その他	
会議録承認	会長 8 月 1 日 承認

会長に木津川委員、副会長に宮川委員を選出

議題7について事務局から説明

- (1) 岸和田市文化振興審議会の概要
 - ・これまでの経過について
- (2) (仮称)岸和田市文化振興条例策定について
 - ・策定委員会について
 - ・審議会の役割について

意見交換

[会長]

行政の中に活かしていただける条例にしたい。理念だけでなく実のある条例にしていこう。

[委員]

浪切ホールに行きたいと思うような催しが今まで少ないと思う。

また何をやるのかの広報もマドカホールもだが少ないように思う。

マドカはホールとしての性能は良いと聞くが、文化のレベルを上げられるような催しや条例にしてほしい。

ただ、他の市の条例を目にすることもないので、審議会が一体何かも分からない状態である。

[会長]

マドカホールでは市民に行きたいと思うような催しはして来なかったのか。

[事務局]

マドカホールは昭和59年に開館し、当初は自主事業をしていたが、浪切ホールが建ってから主な事業はそちらに移した。

現在はマドカホールは市民の練習の場や発表の場、後は市展や文化祭を中心に運営している。

岸和田で見たいものが少ない、やってないと言われるが、決してやってないことはないと思う。ただ委員さんの意見を伺って広報が足りないのかと思う。

[会長]

浪切ホールは市民にとってそんなに魅力がなかったのか。

[事務局]

23年度3月末まで文化財団が管理運営していた。4月からはJTB南海グループに管理運営が変わっている。文化財団当時から根底にあるのは市民のホールだということ。市民主体の催しをPRしながらより多くの人に来ていただくのが大前提である。そのための戦略をしてきたつもりだが委員の方の意見を聞くとPR不足とのことである。しかし、集客の人数をデータで示すと毎年右肩上がりである。

根気良く頑張っているがまだまだであるので、引き継いだJTB南海グループにも努力していただいて魅力を出してもらいたい。

[会長]

浪切ホールの企画担当について伺いたい。

[委員]

市民のホールなので市民の関心のある催しをしていた。ただ啓発も同時に必要である。

市民の文化に対する意識改革をやっていかなければと考えている。

[委員]

市民の意識改革をするものを赤字になってもやってきたのが文化財団のやり方であったが、今回新しいところにかわって、まだ数ヶ月だが、管理者がかかったことでカラーの違いは出しているか。

文化財団解散の時に基本財産3億あまりを市に寄付するとなっていたと思う。文化財団は用途指定して文化振興に使うということのために戻すと言っていた。どのように戻すのか。

文化振興基金に積み上げるのか。

それとも市も財政逼迫のため一般財源として広く使うとするのか。

[事務局]

事業を組むのは1年以上も前から計画しているので、今のところはほとんど文化財団が計画したものである。であるので、自主事業の中ではカラーはまだないと思う。今年度末くらいには民間としてのカラーが出てくるのではないか。

平常の事務所運営についてはメンバーもかかったことにより良いか悪いかはまだ判断しかねる。

JTB南海グループからも自主事業の提案が出ている。それを含めての選定なので我々も提案に沿ってしてくれないと、と注文をつける。

基本財産3億円は市に戻すのは決まっている、余剰金も市に寄付してもらおう。時期、どのように戻すのかはまだはっきりしていない。

文化のために使うとのことで拠出したお金。少なくとも担当課は文化のために返してもらおうべきだと考えている。

[会長]

指定管理者の選定で、JTB南海グループが文化財団より8千万円安く見積もったが、その分どうなるか考えて欲しい。質が良くなるということは考えられない。

安くなったということは人件費や経費を切りつめ、公演内容にもしわよせがいくということになるう。

それは岸和田市民が考えた指定管理者制度であるが、民間に全部移行することで行政が直接タッチすることが出来なくなった。

民間は岸和田の文化がどういうふうになっていくのか、岸和田のために浪切ホールをどう動かして行くのかという発想は全く持っていないだろう。しかも利益を上げていくわけなので、当然水準の高いものを赤字になっても提供するという考えはしないだろう。

浪切ホールが岸和田の市民文化に有用なのかを判断する文化振興条例でなければならない。

[委員]

北は合唱が盛んだが南は・・・と言われているがここ最近北を追い越した。

ある時期は岸和田がすごいと言われていた。

小じんまりしたものをするには700席くらいの中規模がちょうどよいのだが岸和田には無い。

岸和田は自分の親戚など縁者が出るなどがあれば行こうという気になるみたいだ。それは岸和田の地域性だ。

[委員]

自分の活動としては、学校教育と違う場所で子供が集まり輝いた笑顔で音楽を好きになり、将来世界に羽ばたいて欲しいと思い頑張っている。

しかし岸和田では困難なことが多い。演奏会を開いても客が少ない。私達の努力不足もあるが、客は家族ばかり。一般の人にも来ていただくことが長年の課題である。私達もただ嘆いているばかりでなく、何ができるかを洗いざらい出していくとともに、条例もその下支えになっていただけるように願っている。

[委員]

岸和田はだんじり以外に銭をだすのは嫌という気質だ。

[会長]

文化財団を作る時にもだんじり祭は大事だが、だんじり型市民ばかりになっている。文化型市民がいなければ浪切ホールを作っても意味はないとの意見があった。だんじり型市民であるとともに文化型市民になる、そういう町にするようための文化振興条例でありたい。

[委員]

浪切ホールを少しでも使い勝手が良いホールにしたかったがなかなか意見をいう機会がなかった。

浪切ホールで見るものが無かったじゃないかと良く言われるが、みんなが良いというものを何か提供したか？人のしたことばかりの批判で自分は何もしないで見るものがないと言うのは許せない。浪切ホールにこんなんやったらと言うべきだった。

[委員]

浪切ホールが民間に移行したのはみなさんの話ではすごく後退したように聞こえるが、これは選定委員が審査したことなので悪いばかりではない。段階を経てしている。

なってしまったからには、しっかりやっているかどうか今度は市民の目線で見えていくことが市民に求められていることになる。

小さい声でも届けて、逆に市民が指定管理者を動かすということになれば他市に模範になる市になるのでは。

[会長]

岸和田はだんじり・岸和田少年愚連隊・清原というイメージで全国にとらえられている。それだけだと困る。

NHKがコシノ三姉妹をテーマにドラマをつくるが、あのだんじりの町が、ファッションデザイナーを生み出したというのはイメージを変えることにもつながるだろう。そういうことにも希望を持ちたい。

[委員]

最近出生率が各市で下がっている。しかし岸和田は減っていないという。

それはだんじりが原因なのか、それとも保育行政がしっかりしているからか。近隣だけでもどうか聞いてほしい。

条例の策定の中でどう検討されるか分からないが文化振興条例は長く影響のあるものなので、幼児・子供にあてた施策を積極的にすることを盛り込むのも必要ではないか。